

本を選ぶ

NO.476 2025年(令和7年)1月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>未確認飛行物体

●司書の眼 第57回

ーその転機の先ー



ろん・ぼわん

未確認飛行物体

毎年、年末ともなればベートーベンの交響曲第九の演奏会が各地で盛んに行われる。精一杯声を張り上げてフロイデ、フロイデと歌いあげる混声大合唱が魅力なのだろう。合唱団一万人規模の公演もある。いつの頃からこうした慣行めいた音楽公演が根付いたのか。本場のヨーロッパでもというか、本場ではというべきなのだろうが、ドイツではジルベスターコンツェルト (Silvester Konzert) と呼んでいる。もちろん演目はベートーベンの第九だけではない。

ジルベスターはドイツ語で聖人の名であり、大晦日という意味もある。なぜかと言えば、一年間のほとんど毎日にカトリックの聖人の祭の日が指定された聖人暦によれば、12月31日は聖人ジルベスターの日なのだ。フランスなど他のカトリック国でも同様である。フランスでは、かつてこの聖人の祭の日に生まれた子の名付けにはその聖人の名を選ばなくてはならなかった。パリで発行されている日本語のミニコミ誌『ovni』に、そうした事情についてわかりやすく説明されているので少々長い以下に引用する。

「フランス革命以前は、フランスでは教会が戸籍を管理した。「洗礼台帳」が教区の住民登録として

機能していたのだ。革命後それが国の戸籍 *état-civil* にとってかわられ、「洗礼名」が「名前 *prénom*」になった。名前はカトリックの聖人暦から選ばねばならなかったのを、ナポレオンが1807年に緩和し、他の聖人暦や古代の歴史的人物などにまで選択肢を広げた。とはいえ、1993年の法律改正で自由化されるまでは、神話、地方独特の名前、名前の短縮形で愛称的なものくらいに限られ、規定外の名前は戸籍吏の判断に委ねられていたそうだ」(『ovni』836号/2017.9.1)

フランス在住の日本人や日本人旅行者を读者対象としたタブロイド版ミニコミ誌『オヴニー』は、前身の『いりふね・でふね』を引き継いで1979年に創刊された。『いりふね・でふね』(1974年創刊)はベルナール・ベローと当時フランスに移住していたグラフィックデザイナー・エディトリアルデザイナー堀内誠一(1932-1987)の二人が1974年に始めた小さな媒体である。

ヨーロッパのジルベスターコンツェルトは、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団はブラームスのピアノ協奏曲第2番変ロ長調 op. 83他(指揮:キリル・ペトレンコ)、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団はサン=サーンス; 歌劇「サムソンとデリラ」op. 47より他(指揮:トマーシュ・ネトピル)など必ずしもベートーベンの第九一辺倒ではない。各地で多彩な演目が年末カウントダウンで演奏されている。日本でも最近は同じ傾向にある。

『ovni』という奇妙な誌名はUFOと同義のフランス語、即ち *objet volant non identifié*。(埜村 太郎)

司書の眼 第57回

—— その転機の先に ——

鷹野 祐子

選んだ道を信じて

新年におすすめ動画を見ていたら、「計画を貫徹するための5ステップ」というのが出てきた。

ステップ1はノイズをなくし、気を散らすものを排除する。自分の内なる声を聴くこと。

ステップ2は最も重要だと思う目標を明確にする。紙に書くと良い。

ステップ3は完璧を目指すな、まず始めよう。

ステップ4は日々のルーチンをつくり、立ち止まらない勢いを築く。

最後のステップ5はあなたがより良くなることを促し、刺激を与えてくれる人と一緒にいよう。

これらのステップは、知っただけでは人生は変わらない。モチベーションを保ちたいなら成長することに前向きな人たちに囲まれよう。

人生には様々な転機がある。例えば、私自身が経験した転機は外的な要因だけでなく、内からでた興味であった。大学を卒業後、縁があった研究職に就き、研究を続けるよりもそれを支援する情報学や検索技術の方に興味を持ちはじめ、司書資格をとって転職することにした。時代は労働者派遣法、規制緩和政策で、リクルートのキャッチコピーは「あなたの転職を応援します」。定年までいられる権利をあっさり放棄し、バブル崩壊の世の中へ転職するわけであるが、その時は自分でも脳天気な決断だったなあ、と思う。同時期に転職・退職していった仲間は、ハワイでイルカトレーナーになるため留学したり、結婚退職したり、他の研究機関に栄転したり、外資企業に入ってドイツに駐在したりと様々であるが、それぞれにとって大きな転機であった。

けれども「自分が選んだ選択肢は常に正しい」と思う力が人には必要だ。他人から見て正しい選択肢ではないかもしれないが、その時点の「自分が選択した」ということが大事なのだ。私自身、今

の仕事は非常に充実しており、副業で始めた子どもたちへの学習サポートもまた自分に新たな視点を与えてくれる素晴らしい経験である。

縮毛矯正が教えてくれたナンセンス

子どもたちに提供している学習サポートは主に英語と数学であるが、これは積み上げ式の教科であるからだ。英語と数学だけは一夜にしてできるようにはならず、基礎からコツコツと積み上げていく時間と継続が必要だ。

特定の学習領域（たとえば、読み書きや計算）において困難を抱える限局性学習障害（Specific Learning Disabilities, SLD）の子どもたちは、小学校の2、3年生であれ？と思ってから、あつという間に高学年・中学生になってしまう。最初のうちは家庭の支援もあり、学校の宿題を人より多く時間と労力をかけてこなすことで、親も担任の先生でもなかなか気がつかない。そして時間が経つにつれその努力をあざ笑うかのように、宿題は増えていき学習の難易度が上がっていく。一生懸命やっても「努力不足」「やる気がない」と言われて心が傷つかない子どもがいるだろうか。私はくせ毛に毛量が多いので、結んでしまえばそんなに困るというほどでもないが、結ばないとどうにもまとまらない。今までパーマやカットでしのいできたのだが、昨年の春に髪を縮毛矯正したところ、QOLが爆上がりした。とにかく「何も努力しなくても」髪はまっすぐだしサラサラしているのだ。ああこれが定型発達と発達障害の子の違いなのだ、と妙に納得した。学校の勉強と少しの努力だけですんなり理解できてしまう子と、たくさん努力がいる子を一緒に教室で同じ教え方で教え、同じ土俵で評定を付けることのナンセンスさに気がついてしまったのである。

土台からのやり直し

小学生の学習サポートでは、まっさらな状態か

ら教えられるから、特に学校の成績の良し悪しは問題にしない。学習は生活の中で自分の体験からイメージして考える、という学習の基本を教えている。言葉にすると難しいが、要は「教えない」「見守る」ということだ。自分の身体の手感からイメージができていく子は、文章題になって力を発揮するので、高学年になると成績が良くなっていく。仕事のメインは低学年で不安になる保護者対応といっても過言ではなく、子供の成長には早い遅いがありそのうち追いついてくるということに納得させるのが一番大変な仕事だ。

逆に中学生の学習サポートの対象は、主に新中1とその後は平均点のちょっと上から下の子たちをメインにしている。まあまあ平均と、本人も親も思っているゾーンだ。学校の内申で4以上取ろうと思う子は一緒にいられると指導内容が違いすぎて困るので、早期に他の塾に行った方が良くアドバイスする。今時の中学校の内申評価は、言われたことを期日を守って提出していれば、平均以下～8割できている子は評定3となるシステムである。つまり、「3」の中の学力の振れが大きいので、同じ換算内申で高校に行っても学力が大きく違う。

今年は小5から継続的に見ている子たちが中3になって主に都立高校受験を目指す。それぞれの個性は小学生の時と全く変わらない。私の知らない生活も友達もあるだろうが、その子たちの芯はかわらないのだなあ、と日々思うことが多い。平均点周囲の子たちは、部活が忙しい、趣味が忙しい、スマホや動画が大好きと日々の学習がおろそかになっていることが多いが、実は学力の問題は小4くらいから芽を出して、まずは小学校の復習から必要になることが多い。今の生活習慣が問題なのではなく、過去の取りこぼしを補填しなければ、いくら中学校で真面目に学習しようとしても、四則演算がママならぬ、単位換算が体験的に理解できていなかったら、中学生の学習を上積みしても何も理解できない。土台からのやり直しこそ、この層に必要な学習だ。

さらにいうと、この層の生徒たちは「学習をす

る気持ち」が欠如している。いままでは努力したとしても芳しい成果が見えなかったのだろう、とにかく学習に対してやる気がない。高速大量学習で対応しようとしても、そもそも自宅で学習に取り掛からない。そこで、日々の雑談やアナログゲームのお楽しみやちょっとした工作から徐々に将来のこと、そのためのスモールステップ、今足りないことなどを少しずつ感じさせていく。

入学当初から指導継続している子たちは、中3の春から夏休みくらいに「親や教師にやれと言われるから勉強するのではなく、自分の学力を上げるために勉強する」「自分が行きたいのはこの高校だ」とハタと気がつくのだ。

そして、この段階に至ると自学自習が成立するので、模試の結果から個別のスケジュールを提示し、伴走し、それぞれがわからない問題を解決させていくだけで面白いように学力が伸びていく。5教科をこまごま教える必要はない。指針を示し、テクニックを伝え、自分のできない学習を乗り越えるきっかけを用意するだけで良い。人生の岐路において自分で判断できたら、どちらに進んでもそれは成功への道なのだ。

成長の種が隠されている場所

ところが、入試対策も本格的になる秋になって、長年他塾の「やらされ学習」に通い、それすら放棄していた子が参加することになった。

他の生徒の友達だったので評判を聞いてきてくれたのは嬉しいものの、親はこの時期によく転塾させたなあ、と思う。早速体験会を実施し、ご両親と面談した。お二人とも妙な威圧感を醸し出している。これから大事な子どもをサポートしてもらおう相手に腕組して話をしている親っているかしら。成長を心配するあまり、子どもを指導しなければ、正しい道を歩まざなければと、黙って見守ることができない典型のご家庭のようだ。第一子の長男は、平均クラスの高校に在籍し、現在学年1位なので、この子も同じ学校に入れたいという。淡々と両親に入試までのスケジュール案を提示し、本人の希望なら、と納得して入塾すること

になった。

当の本人は語彙力・想像力が豊富、手先も器用でなんでもこなすものの、親の言うなりにその学校を目指しているの、学力・内申は足りていないが、時間を惜しんで学習する気はさらさらでない。自分の本当の希望が見えていないので、エネルギーの行き場を失ってスキビに入れ込んでいる状態。この状態から本人の自覚を促すも、「昨日も1時間車の中で叱責された」だの「志望校変えたらスマホとられた」だの家族の干渉が入り、一向に内声を聞くことができない。

自分が何を好きなのか、何を指すのか。得意なことは後回しでもついてくるので、まずは「楽しい」「好ましい」がわからなければ選択を誤ってしまうのではないかと。受験のような外からの圧力を通じて困難に挑戦できるような成長を感じられるのではなく、どんな小さなことでも自分で選択した満足感がより豊かな人生をもたらしてくれると実感している。

同時期にサポートしている中学受験生は、行きたい学校が親子とも明確で、必死に努力している。こちらは逆に、夢がかなわなかった時の選択肢にも、楽しいこと良いことを見つけるようにと念を押している。あまりに希望が強いとそうでなかった時の落差が大きく、その後の中学生生活が残念なものになってしまうからだ。

同じ受験でも、必ず行ける学校があるのとならないのでは大きな違いがある。12歳での挑戦よりも15歳での高校受験は心身ともにちょうどいい刺激になると思っている。自分自身転職による異なる分野での経験は、視野を広げ、新たなスキルや知識を習得する機会となった。人生の転機は一見すると外圧から生じるが、必ずしも希望の道でなかったとしても、その出来事の中には自分自身の心の中で「心の声」や「内なる対話」をすることに新たな成長の種が隠されている。

痺れる「学びの多様化学校」の校訓

今年の春、娘が中一ショックで不登校になり、この状況に毎日が悩みの連続だった。しかし、二

学期が始まって登校する気配がなかったので、サポートの先生に相談して毎週オンラインで話す機会を設け、スクールカウンセラーさんとの面談で受験の対策に手厚い「学びの多様化学校（不登校特例校）」での受験サポートが有用という情報を聞き、11月に体験授業を経て通学がはじまった。

この学校には『みんなが守まもるべきこと』があって、

1. 法律をまもろう
2. 人権を大切にしよう
3. 授業を受ける権利を守ろう
4. 公共物を大切にしよう
5. 地域の人を大切にしよう

があげられている。よくある「清く正しく美しく」的な「みんなとなかよくともに高め合う子」とか「夢や希望に向かい、進んで学ぶ生徒の育成」とかではなく、まず法を守る、人権、学ぶ権利、と来るところに痺れた。この学校には学ぶ権利を阻害されている子がたくさんいるのだ。まずは基本的人権のうち、教育を受ける権利を守ること、地域社会と交流を促し、健康で文化的な生活を送ることができるように支援している。

東京都にはこの学校の他にも公立の学びの多様化学校が設置されており、全国で私立を含め35校がある。でもまだまだ10倍以上は足りていない。実感としては40人クラスに3人くらいの不登校予備軍がいることを考えると、保健室登校、五月雨登校も含めたらものすごい数になるのではないかと。

新たな決断がもたらしてくれたもの

この不登校特例校は近いといっても徒歩圏内にある地域の学校よりは遠い。そのため学校の近くにあるUR住宅をセカンドハウスとして借りるという決断もした。UR住宅は築後50年、40年たち一時期入居者が減って高齢者ばかりになったことが問題になっていた。そこで外観のデザイン変更、企業による大規模なリフォームや個人的なリフォームを許可する、子育て世代への家賃値引きなどによって再び活気が戻ってきている。

我が家としても新たに賃貸住宅を借りる経験も何十年ぶりで、書類の準備や敷金の用意など気ぜわしい日々が続く、その一方でインテリアや照明を選ぶ楽しさを感じることもできた。このセカンドハウスを借りたことは、経済的には大きな負担となるが、私立中学に入学するよりは安く、また通学する本人と付き添う保護者の気持ちにゆとりをもたらしてくれた。最終的には自宅から電車通学できるように持っていきたくて、賃貸するのは短い期間かもしれないが、より狭い住居への引っ越しをシュミレーションするという生活のダウンサイジングの練習になった。今回賃貸した住宅は老後の生活には十分な広さだが、住むためにはかなり荷物を減らさなければならない。そんな刺激から年末には大きな断捨離を進めた。

書類や書籍が増えていたのでまずは本の整理をしたのだが、思い出の本も最近著者が鬼籍に入り、ひと時代が終わった感もある。これらの本を保存するかどうかかなり悩み、こんなところに図書館員としての癖が出て、入手可能なものは処分して絶版資料を優先的に取っておくことにした。絶版資料としても、今の自分に必要なければ、価値のないものなのに。

さらに書斎の様態替えも行った。今回は本棚を背にしたのでオンラインミーティングのために棚

に置かれた本に気を遣う必要があった。そこで本棚のデコレーションについて調べてみると、同じ色や形のアイテムを棚の中で三角形に配置することで視覚的な効果があるそうだ。実際に配置してみてもセンスが必要なようでかなり難しい。よさそうなスタイルを見つけてそのまま真似するのが早道のように思うが、まだ積みあがったままのこれらの本をどうしよう、と思っている間に新年が始まってしまった。

Do the hokey pokey

高校受験、大学受験、転職と、転職は大きな決断が必要だが、自分のキャリアや行く先を見つめ直す機会となり、スキルや知識を広げるだけでなく、新たな人間関係を築くことにもつながった。常に前向きな姿勢を持ち、新たな経験を積み重ねていく。これらが「困難や挑戦を乗り越えることで得られる成長や新たな視点が、私たちの人生を必ず豊かにしてくれる」と信じられる自信なのではないかと思う。

娘の不登校という状況も、セカンドハウスを借りるという決断も、断捨離や書斎の様態替えも、すべてが私たち家族にとって新たな視点を与えてくれていると思う。

(たかの ゆうこ：医学系研究所図書室)

DMがたろく

戦後、現代まで、6時点の地図を並べて
体感する。
中東世界の变化を

1878
1920
1948
1967
2003
2024

近現代の
中東150年
くらべて楽しむ地図帳

関真興 編著

定価 1,980円
(本体1,800円+税10%)

山川出版社

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 <https://www.yamakawa.co.jp/>

調べる学習百科

お金のデザインと歴史

お金の歴史や技術って面白い!!

昨今キャッシュレスが浸透し、お金は目に見えにくいものとなりがちです。しかし、お金にはさまざまな**歴史や技術**が詰まっています。改めてお金自身の意味や歴史について調べてみましょう。

貨幣博物館カレンシア・監修

- 定価:本体3,600円+税
- A4変型判(29x22cm)/64頁
- ISBN978-4-265-08670-2

小学校・中学年～中学生

この1冊が未来をつくる

岩崎書店

〒112-0014 東京都文京区関口 2-3-3 7階
TEL:03-6626-5081 FAX:03-6626-5085

西岡文彦

印象派の発明

美の技術革新と市場の創造 印象派誕生
150年の必読書。 2970円



D. フィルヨー／押野素子 訳

チャーチ・レディの 秘密の生活

鮮烈でセクシュアル、最注目作家の
PEN／フォークナー賞受賞作。 2640円



勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

子育てにとまどう 母親たち

武井 明【著】(市立旭川病院)

思春期外来で明かされた
それぞれの事情

●定価1980円(税込) 978-4-535-56444-2

2月上旬刊

思春期外来を訪れる母親たち。
家族や周囲に振り回され、子育てに傷ついた彼女たちの
苦しみにベテラン精神科医が優しく寄り添う。

時局を掴み、層を読む、知の巨人による時評集。

2月中旬刊

2022 木庭 顕【著】

●予価3300円(税込)
ISBN 978-4-535-52849-9

日本：歴史的諸層位

国際社会と日本の構造を照らし出す事件をもとに、現代史分析に挑む。



日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 <https://www.nipponyosha.co.jp>

法律学小辞典 第6版

高橋和之・伊藤 眞・小早川光郎
能見善久・山口 厚／編集代表

定評ある法律辞典の最高峰

- ◇最高の編集・執筆陣による信頼と充実の辞典。
- ◇学習・実務に必要な概念・用語等を網羅。
- ◇収録項目総数 約10000。
- ◇解説の根拠となる法令や学説・判例を丁寧に引用。
- ◇参照指示の充実により、目的の語にすばやくアクセスできる。



1月24日発売 四六判箱入 定価 5,720円



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17 価格は税込
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

『銀河鉄道の夜』 起筆100年記念出版!

北に憧れる宮沢賢治の魂と言葉を北極圏に連れて行く旅に出た詩人と音楽家が本当の幸いを探る辺境紀行。

■四六判／270頁
■定価2,530円(税込)

管 啓次郎、小島敬太【著】

サーミランドの 宮沢賢治



白水社

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24
www.hakusuisha.co.jp/ tel.03-3291-7811

新・動物の解放

ピーター・シンガー 著 井上太一 訳 4400円



動物の権利運動の理論的基盤

不滅の名著 30余年ぶりの全面改訂版を完全新訳。最新データと議論に基づき本文の3分の2を改稿。気候変動や新型コロナウイルス等のトピックを加え21世紀の課題に答える。

序論 ユヴァル・ノア・ハラリ(『サピエンス全史』)

晶文社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

ESTRELA

■2025年1月号
No.370/1月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

【特集】がん登録データとがん検診

■がん検診の社会的課題とがん登録／
片山 佳代子(群馬大学情報学部 准教授)

■がん検診の精度管理とその周辺／
阪口 昌彦(大阪電気通信大学情報工学科 准教授)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階
TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>